



市長の ふれあい訪問



「川口市福祉の日推進委員会」

地域社会の連帯感の回復と魅力ある地域社会づくりを目指し、10月25日の「福祉の日」を中心に各種啓発活動や毎年開催される「川口市社会福祉大会」。これらの企画・運営を行っている「川口市福祉の日推進委員会」のみなさんを岡村市長が訪問。その活動内容などをお聞きしました。

市長 みなさんこんにちは。月日が経つのは本当に早いもので、今年もあと3カ月となりました。

今月の市長のふれあい訪問は、「川口市福祉の日推進委員会」の委員のみなさんです。はじめに副会長の林さんにお聞きしますが、「福祉の日」とはどのようなものですか。

林 川口市では、福祉の向上を目指すことを目的に、昭和57年から毎年10月25日を、「福祉の日」と定めました。

今月25日には、27回目の「川口市社会福祉大会」が開催されます。福祉の推進・向上に尽力された方々の表彰や結婚60年目のダイヤモンド婚、50年目の金婚の方々をお迎えしてお祝いします。

市長 推進委員のみなさんは、どのようなことをされるのですか。

若林 それぞれが担当を受け持ち、社会福祉大会をより盛り上げていくために、その内容や進行方法などを話し合っています。

市長 櫻井さんは小学校の先生ですが、教師で推進委員になる方は少ないのではないですか。また、委員としての担当は何ですか。

櫻井 少ないと言いますが、私が初めての委員だと聞いています。

社会福祉大会を開催するにあたり、「福祉の日デザイン画」というものがあり、小学生の部、中学生・一般の部を対象に毎年募集を行っているのですが、私はそれを周知する活動を担当しています。

北原 毎年、「福祉の日」に福祉をテーマとし

た標語今年は「さしのべよう愛の手担い手守りの手」を募集し、その標語に基づいた絵を募集します。社会福祉大会当日は、各部門の優秀作品の表彰を行い、受賞作品の展示もします。

市長 昔と今では、福祉に関する市民の考えやとらえ方などに変化はありますか。

林 高齢社会を反映して社会福祉大会に参加される方が年々増えていますし、多くの市民が川口市の行う福祉の施策に大きな関心を持つているな、と感じています。

市長 福祉の日推進委員のほかにも、ボランティア活動などを行っておられますか。

若林 学校が週休2日制になったことで自由な時間ができたのに、今の子どもたちは遊びが足りないと思います。土曜日の小学校を利用し、子どもたちと遊びをととしたボランティア活動をしています。

渡邊 「グラウンドワーク川口」に参加し、子どもたちに自然体験の機会を提供するため、見沼たんぼで米作りをしたり、荒川の河川敷に造られた「盛人の森」の維持管理を、私にできる範囲でボランティア活動をしています。

市長 今までの「福祉の日」は、どちらかとい



川口市福祉の日デザイン画最優秀作品

中学生・一般の部
中根 由香利さん



小学生の部
堀 佳奈さん



うと大人対象という印象でしたが、これからは、子どもを含めた幅広い年齢の方々に福祉の心を醸成しようという「福祉の日」にする必要があるのかなという気がしますね。

林 ええ、現在市内18地区に地区社会福祉協議会が組織され、その地区ごとに地域福祉活動を展開しています。子どもから高齢者まで、お互いの助け合いのため、自分のできることを地域の中でやっていこうという活動が具体化しつつあります。この活動を私たちもバックアップして、地域に根ざした福祉活動を行っていきたいと思っています。

市長 「福祉の日」は、年に1回ですが、福祉活動は、365日毎日だという考えが定着することを期待したいですね。

社会福祉大会も今年で27回目を迎えますが、有意義な大会になるよう、また、ご尽力いただきますようお願いいたします。今日はありがとうございました。